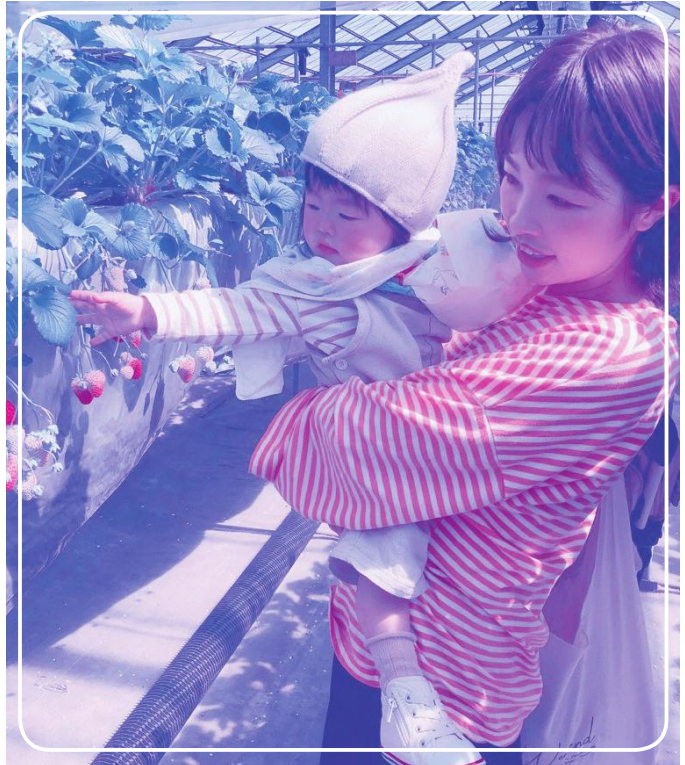


ばらネット・にしお



ワーク・ライフ・バランスのコツについて 子育て中のママ・パパにききました!



家族や職場の人と助け合い、西尾市のさまざまな場所で活躍する子育て世代の方達のライフスタイルをのぞいてみました。
詳しくは次のページへ!



もくじ

- *子育て世代のリアルなワーク・ライフ・バランス …… P2、P3
- *令和元年度LGBT職員研修を開催しました! …… P4

「男女共同参画」

仕事も家庭も、自分の時間も諦めない! 相乗効果で豊かな人生を手に入れよう!

もっと人生を楽しむ!

子育て世代のリアルなワーク・ライフ・バランス

西尾市で暮らすママ・パパにコツやホッネを伺いました!

仕事と家庭を両立し地域で活躍中



NPO法人多文化共生サポート
Adagio (アダジオ) 代表

高木 祐子さん

家族構成

夫婦 (共に40代)

子ども2人 (小学生と中学生)

ライフスタイル

NPO法人やボランティア、家庭のことなど相乗効果
で楽しみながら市内外で活躍中!

★NPO法人多文化共生サポートAdagioを立ち上げた
きっかけは?

子どもが小学校に入学した時、小学校のクラスには外国籍
の子どもたちが数名ずつ在籍していました。子どもに外国人
への偏見をもたずに、同じクラスのお友達と仲良くして欲し
いと思い、国際交流協会の活動に親子で参加しはじめまし
た。そして、このことがきっかけで10年程前より多文化共生
の活動をスタートしました。

最初は親子で参加していましたが、そのうち自分が保護者
の困りごとの相談を受けるようになり、活動の幅を広げるた
めにも自分で団体を立ち上げました。現在は、10人~15人
程度の人数で活動しています。

★ワーク・ライフ・バランスを実現するための工夫は?

家庭では、お風呂掃除やごみ捨てなど子どもにも役割があ
り、家族で役割分担をして助け合いながら生活しています。

平日は、子どもたちより早く出勤し、帰りは、小学校のボラ
ンティアや団体の活動をし遅くなるため、家庭の時間が十分
に取れませんが、土日で1週間分の献立の下ごしらえをする
など、時短で済む工夫をしています。

また、小学校のボランティアに参加することは、子どもの様
子を家庭以外でも見る機会となります。子どもにとっても親
を身近に感じられるため安心できるようです。

家事・育児などの日々の生活と両立するためには、全てを
完璧にやろうとせず、妥協をするところは妥協をして、自分で
感情のコントロールをすることが大事だと思っています。

NPO法人多文化共生サポートAdagioについて

外国人住民と日本人住民がお互いに寄り添って生活していけるように、①
防災・減災のサポート、②日常の困りごとサポート、③コミュニケーション
サポートの3つの柱を中心にサポートしている団体です。言語によるさまざ
まなトラブルを避けるために、相談会や勉強会を開催し、やさしい日本語や多
言語での生活や災害に関する情報をSNSや紙面、チラシ等を用いて発信し
ています。



現在、育児休暇を取得中

★育児休暇を取る際の職場の協力は？

職場の女性は当たり前のように子どもを産んでからも復帰しているので、育児休暇を取るのに抵抗はありませんでした。また、休みを取る半年くらい前から、自分が抜けたあとのフォローを職場内で段取りよく回していけるように、ローテーションを考えながら上司と面談をしたので、スムーズに育児休暇に入れました。

★子どもが生まれてからの夫の協力は？

夫は日頃から洗濯物や洗い物、子どもの入浴、寝かしつけ、おむつ替え、散歩など率先して育児に参加してくれるので、とても感謝しています。社内の男性社員は、子どもの看護休暇などで数日休みを取る方はいますが、まだ育児休暇取得の実績はありません。職種にもよりますが数週間でも育児休暇を取りやすい体制になると良いと思います。

★職場復帰後の受け入れ体制

仕事内容や家庭との両立など不安はありますが、職場には子育ての経験を積んで復帰している上司や相談に乗ってもらえる環境があるので大変心強く思います。

★今後に望むことは？

女性も仕事を継続しながらキャリアを積み、子育てもしていけるとよいと思うので、テレワークや会社内に保育所があると安心して働くことができると思います。また、夫の協力はとても助かりますし、子どもに関わる時間も大切だと思います。これからは、男性も含め誰もがリフレッシュ休暇のような休みを取りやすい社会の体制作りが進んでいくと良いと思います。



株式会社イナテック 社員

あおき まな
青木 真奈さん

家族構成

本人(20代) 夫(30代)

子ども(1歳4か月) ※インタビュー時点

ライフスタイル

職場の柔軟な対応によりスムーズに育児休暇を取得し、旦那さんと共に、家事・育児に奮闘中!

パパとして、育児休暇を取得



西尾市役所 職員

きんばら たくや
金原 拓矢さん

家族構成

夫婦(20代)

子ども(0歳6か月) ※インタビュー時点

ライフスタイル

育児休暇取得後も、休暇中のスキルを生かして、おむつ替えやお風呂、一緒に遊ぶなど、日々子どもの成長を感じています!

★育児休暇取得のきっかけは？

子どもが生まれたら育児に関わっていきたくて思っていました。そこに市長が育休を取得し、「イクボス宣言」をしたことが後押しになりました。

★休暇を所得したことで気づきや意識の変化は？

休暇のはじめの頃は、休むことで妻の手助けになればいいかなど育児休暇中の過ごし方について、気楽に考えていました。

しかし、実際に育児休暇を取って、妻の1日の様子を見ることで、妻には気持ちの休まる時間がないことや、普段は家にひとりであるため気分転換しにくい状況であることがわかりました。

まだまだ任せきりではありますが、育児休暇を取ることで子どもに対して関わりやすくなったと思います。サポートする立場ではなく、「自分が育児する」という気持ちを持つことができた2週間でした。

★取得する際の周囲の反応や復帰後の受け入れ方は？

職場の同僚からは背中を押ししてもらい、忙しい時期でしたが、自分の仕事を分担して協力してくれました。妻も喜んでくれましたが、もう少し長い期間の取得を望んでいました。

復帰に関しては、職場の方が育児休暇に対して理解があったため、すんなり復帰することができました。2週間という短い期間ではありましたが、夫婦の気持ちが安定し、やる気にもつながるので推進していきたいと思います。また、今後、育児休暇だけでなく介護休暇も取りやすい状況になれば良いと思いました。

令和元年度LGBT職員研修を 開催しました!

日 時： 令和2年2月26日(水) 午後1時30分～午後3時30分

講 師： 梶山女学園大学人間関係学部 教授 ふじわらなおこ 藤原直子氏

対 象： 市職員55名

内 容： ①LGBTの基本理解(講師講演)
②西尾市パートナーシップ宣誓制度について(市担当者)

LGBTに代表される性的少数者は、人口の5～7% (13人～20人に1人)と言われており、家庭や学校、職場、地域社会など私たちの身近な存在であると言えます。西尾市では令和元年9月1日より西尾市パートナーシップ宣誓制度を導入したことから、市民サービスを担う市職員の意識改革を目的にLGBTに関する正しい知識と適切な対応について学ぶ職員研修を実施しました。



研修参加者には、
多様な性に関する理解者として、
西尾市^{アライ}ALLYシンボルマーク
ピンバッジを配布しました。



参加した職員の感想

- 身近にそのような方がいて、どのように対応したらよいか戸惑うことがあったけれど、理解が深まり、今後身構えずに対応できそうです。まだまだ差別はあると思うので、この研修は必要だと思います。
- 西尾市にもLGBTの人同士でパートナーになりたい人はいると思うので、この制度を広めていく必要はありそう。性の多様性について、深く学べた気がする。

参加したばらネット役員の感想

所属課によって温度差を感じました。「人は誰もがマイノリティの部分がある。」と聞いたことがあります。意識と価値観は個々にばらばらだからこそ、知識を得ることで多様なとらえ方ができ、理解度を高めることが大切だと学びました。

ばらネット
会員を
募集します!



ばらネットは、女性の社会参画の推進、行政との協働、男女共同参画社会の実現を目的に、活動している市民グループです。各種団体の皆さん、個人での会員登録、男性会員も大歓迎です。私たちと一緒に活動してみませんか?

【編集・発行・問い合わせ先】

西尾市役所 市民部 地域つながり課 〒445-8501 西尾市寄住町下田22番地

TEL : 0563-65-2178 FAX : 0563-56-2175 E-mail: kyoudou@city.nishio.lg.jp

【編集協力者/市民活動グループばらネット】手島とし子、坂部三枝子、山崎裕子、太田信吾、
榊原裕美、犬塚栄子、杉浦正浩



「ばらネット・にしお」
バックナンバーはこちら